

農林水産大臣賞受賞

受賞者 ひろうら^{いなかく}田舎暮らし^{たいげんすいしんきょうざい}体験推進協議会

(茨城県東茨城郡茨城町)

【ひろうら de 田舎暮らし！ ー現役のガキ大将がお待ちしておりますー】

1 取組の動機と背景

ひろうら田舎暮らし体験推進協議会の活動拠点である茨城町下石崎地区は、涸沼の北東部に位置し、民宿等が営まれ、数多くの観光客や釣り客が訪れていた。しかし、少子高齢化の影響に加え、東日本大震災以後、民宿の廃業等が相次ぎ、地域の意欲も著しく低下していた。

このため、下石崎地区の有志により、農家民泊、農漁業、伝統芸能体験等により都市と農村との交流を図り、地域を活性化しようとする機運が生まれ、本協議会を設立し活動を開始した。設立当初は行政からの支援も必要であったが、活動を積み重ねる中で地域住民の参加も増え、自主運営できるまでに成長し、その活動は町全体に広がっている。

2 主なむらづくりの内容

- 協議会の活動は、協議会員だけでなく農業、漁業、伝統芸能、郷土料理に関係する多くの人々と連携しつつ実施。また、行政主導ではなく、協議会自らが農泊・農業体験受入れ農家の募集、受入れのルール作り、安全・衛生面への対応など企画運営の一切を実施。
- 活動当初から農泊や農漁業体験等に関しては外国人を積極的に受入れ（利用者全体の約8割が外国人観光客）。一方通行的な観光とは違い、農泊受入れ家庭での“もてなし”や農漁業体験は、外国人学生達からの人気が高く、体験者と受入者の双方向の交流を実現。
- 典型的な日本の原風景と言える景観、自然環境、農漁業体験、伝統芸能等のメニューなど多岐におよぶ体験プログラムを用意することで、毎年訪れるリピーターを獲得。多くの人達が地域を訪れることにより、農漁業外の収入の増加及び地域経済へも貢献。
- 小中学校、高等学校、大学と交流を行いながら実施する農漁業体験や地域の郷土料理体験は、地産地消、郷土料理及び伝統芸能の伝承に貢献。
- 協議会の活動を通じて、地域住民の連帯感は一層強化され、住民自らの力で地域のあり方を考え、創意と工夫により行動。漁業体験等の力仕事は男性会員が中心となっているが、農家民泊、農業体験、郷土料理等のプログラムは、全て女性協議会員が中心となり実施し、地域の女性が活躍。



涸沼での「伝統漁業体験」



郷土料理作り体験「花巻寿司」



「浴衣の着付け体験」



地元高校生との交流事業